

## カレンダーの絵を描いた子どもたち

表紙 小学5年生

この絵は5年生の3月に描いた。絵は描くとき、その時の一瞬の気持ちで描く、その一瞬は楽しい。だから描くのは大好き。やりたいことはやれている、言いたいことは言えている。だから何も困ってはいない。自分で考えて行動したことは楽しい。できないじゃなく「難しい」と考える。好きなことは本を読むこと。

1月 小学6年生

6年生の二期の絵。「私はみんなと同じにはできない」ことに気づくことがあり、学校に行けなくなった時期もあったが、学校を休んだことによって、これからどうしようと考えてことができ、「人は人だし、自分が思ったことをやっていけばいいんじゃないの」という保育者の援助もあって、『自分の良いところを伸ばせばいいし、恥ずかしいと思っていた窮屈な自分をさらけだせば自由になれる』と考えられたようだ。この絵は、絵の具が流れてしまったのだが、「修正したらもっと面白い絵になった」としてできた絵。

2月 1歳11ヵ月

兄、姉、双子(本児と妹)の4人兄弟。兄弟の中でも少し控えめな性格。絵を描くと端っこに小さく描いていることが多かったが、少しずつ自分が出せるようになってきている。そんな本児はクラスのムードメーカー! 変顔したり鬼やお化けになってみんなを追いかけて遊びを作り出してくれている。外でたくさん走り回る事も好きだが絵を描くことや絵の具やスパックリングも大好き。好奇心旺盛で日々活動を楽しんでいる。

3月 3年生

学童期の子育てが大切と学ぶなか彼女自身が積極的に「学童保育や絵を描く会」に参加することで自己表現をした絵。日常生活においても、周りに流されることなく過ごしている彼女の姿がしっかり前を向いていく猫の姿と重なります。

4月 2歳4ヵ月

兄がいる第2子。とても意志が強く、しっかりと自分を表現できる子。周りや上の子のクラスの様子をじっくりと見てしっかりと模倣する力を持ち毎日を力強く生きています。言語が増えておしゃべりが楽しく画面いっぱい表現している。

5月 中学1年生

中学生になり、他地域からの転校だったのでわくわく・どきどきだった。とねっこの学童の友達ともクラスが分かれてしまったが、気がついたらいつのまにか話せる友達ができていて「あんがいいけるじゃない!」と思ったそうだ。美術部に入ったものの、自由に絵を描くイメージと全然違って楽しくなく、幽霊部員となり、とねっこにきて絵を描くこともあった。絵は、スニーカーに絵を描いているのを見たことがあり、そのイメージで描いてみた。そして自分でもスニーカーに絵をかいてみて、「こんなこともできるんだ。新しい発見だよ」と言っていた。

6月 2歳10ヵ月

紙芝居を見る時のワクワクの表情。絵の具の感触を手と足で確かめたりと好奇心もいっぱいの子。おしゃべりも遊びもお友達と一緒に楽しんで自分の世界をますます広げています。

7月 小学5年生

この夏、とねっこの学童と一緒に沖縄平和学習に参加しました。「家族がバラバラにされるのが戦争。わたし、戦争はいやだ」。親と別れて疎開するために乗り込んだ船が撃沈。自分と同年齢のこどもたちが犠牲になったことを知った『対馬丸記念館』で彼女は感じたそうです。寡黙な子。夏の学童に自分の意思で通い、仲間の中で生活しました。

8月 小学1年生

1年生になり、学校に通い始めたたん、「やっぱり学童で聞いていた通りだ。学校って疲れるし面倒くさい。」と言っていた。半面、新しい教材をもらったりすると、必ず見せにくる。期待もあるのだろうが、不安への表現・行動でもあるのだろうと受け止めている。自由さもいっぱい持っていて、授業中眠気に勝てず、寝てしまうこともあることを楽しそうに語ることもあるなど、力も抜いてがんばりすぎないこともできるようになっているようだ。

9月 小学2年生

この学年は、かつていた「腕白小僧」みたいな子たち。この子は、学校では決まりを守って生活しているようだが、とねっこでは心を開放できるため、作文の宿題にとねっこのことを描くくらい大好きです。ある日、2年生たちがとねっこの決まりを守らず、6年生の勉強の邪魔をしたことがあり、いくら言っても言うことを聞かなかつたため、6年生と2年生が向き合って話をすることになった。最後は「もう6歳以上になったら人の気持ちがわかるはず。ごめんなさいと口で言ってもダメ。一人ひとりが考えないと。」と言われ、「わかった。」と納得した後の絵。父も、子どもの心持でこんなにも絵が変わるのかと驚きを隠せなかった。ちなみに、この時の2年生の絵はみんなが集中した絵を描いていた。

10月 4歳3ヵ月

「これをこうしてみようよ」、「こうしたら、こんなになったよ」。ごっこ遊びでもなんでも、工夫して楽しく仲間と遊びます。今は、「坊さんが尻をこいた」の鬼ごっこに夢中です。描くこと、作ること、大好きです。

11月 5歳

年長の時10月の運動会の後のころ描いた絵。生まれ月は遅いが、自らやってみたいという意欲があり、いろいろなことに挑戦していた。人が好きで、年齢に関係なくいろいろな人と交流を持ち、小さい子とも、学童さんなどの家にも泊りがけで遊びに行っていた。自分の考えをだれにでもちゃんと出せる、遊びも他の子が考え付かないようなことを思いつくなど、ユニークさがあつた。

12月 6歳

年長の最後の絵。仲間の中で大きな声で自分を主張することはあまりないけれど、ゆずれないことは自分なりの言葉で出せる子だった。両親だけでなく3人の兄姉からの愛を一身に受け、気持ちが安定していて、誰に対しても対等に接することができる子。自ら取り組もうとすることが増えてくると、生活面でも寝る・食べる・遊ぶがしっかりとできて、声も大きくなり、友達の家に泊りがけで遊びに行くなど、行動も広がっていった。入学が近づくと、苦手なことも「こまでは頑張る」と自分で決め、時間がかかっても取り組むようになった。

## 保育者の延長としての活動



紙芝居・リズム遊び・思いのままに絵の具で描くお絵描きで子ども達との交流を続けています。



協力園 わかば保育園(絵を実践した保育園)  
社会福祉法人太陽 半田市西大矢知町 4-61-1 0569-89-8998

名古屋 村上 敦子(アート・さくら)

大きくなりました。二人目の里子を受託して12年です。その子は高3になり就職も内定しました。受託当初は就学前で体重が14kgしかありませんでした。身長は1mちょっと。毎日の生活はちからと確信し生活することで、土台を築くことができたと思います。写真が物語っています。2022年12月に受託した(現在1歳8ヶ月)の男の子の全てに癒されながら私たちは生活しています。子育ての専従者として、実子では出来なかった子育ての楽しさを味わいながら、子どもの未来と可能性に希望が持てる日々を重ねて行きたいと思っています。

錦織いづみ(鳥根県安来市)